

神韻靈峰

山元桜月 一幅

絹本着色 昭和四十〜五十年代
本紙四四・一×五〇・五

山元桜月（二八八七〜一九八五）は、大津に生まれ叔父にあたる山元春挙（一八七一〜一九三三）に絵を学んで春汀の号を与えられた。春挙没後、桜月の号を用いるようになる。師の春挙も山水図を得意とし、富士図に関しても優れた作品を多く残している。そして桜月も膨大な量の富士図を描いた画家であり、大観が「山元桜月君も多分山中湖畔に家を構へて富士山を描いておると思ひます」（『大観画談』大日本雄弁会

講談社、一九五一年）と語っているように、富士の近くに居を構え富士をモチーフにした絵を描き続けた。昭和十五年の紀元二千六百年奉祝美術展覧会においても、「神光照乾坤（三ツ峠より）」と題した富士図を出品している。桜月の描く富士は一つ一つ異なる姿で表現されており、桜月が真摯に富士と向き合い、一日の時間帯で、また季節毎に刻々と表情を変える富士の本質をとらえていたことがわかる。

33

赤富士

山元桜月 一幅

絹本着色 昭和四十〜五十年代 本紙四六・四×五八・七

- ・各展覧会図録中，作品名や作者，制作年などの表記は，図録発行当時のものです。
- ・三の丸尚蔵館の展覧会図録の著作権はすべて宮内庁に属し，本ファイルを改変，再配布するなどの行為は有償・無償を問わずできません。
- ・三の丸尚蔵館の展覧会図録（PDF ファイル）に掲載された文章や図版を利用する場合は，書籍と同様に出版を明記してください。また，図版を出版・放送・ウェブサイト・研究資料などに使用する場合は，宮内庁ホームページに記載している「三の丸尚蔵館収蔵作品等の写真使用について」のとおり手続きを行ってください。なお，図版を営利目的の販売品や広告，また個人的な目的等で使用することはできません。

富士 ―山を写し、山に想う―

三の丸尚蔵館展覧会図録 No. 46

編集 宮内庁三の丸尚蔵館

制作 株式会社東京美術

翻訳 横溝廣子

発行 宮内庁

平成二十年三月二十二日発行

© 2008 The Museum of the Imperial Collections